

人間というのは、制度・体制の中に身を置いてしまうと、その矛盾や不条理に対して疑問をもたなくなってしまう。第三者の目から見れば不思議で仕方のないことが制度という名のもとにまかり通っている。制度を見直すことによって新たな儲けの道が開かれるとあらば、世の中もう少し真剣に矛盾の見直しを考えるようになるだろうか。2, 3の例をあげてみたい。

事務機メーカーさんへ 健康保険制度はいろいろ問題が多いとされていて議論が多く、言い古されているのかも知らぬが、ひとつ素朴な疑問を呈したい。それは、加入者本人はタダということで、お金を払わずそのまま帰ってしまうのはなぜかということだ。大病の場合は別として、自分のフトコロが痛まないから患者は気やすく医者通いをするし、医者のほうは、簡単な病気に対してバカ高い治療をしたことにしても相手は分からぬから、いくらでもゴマ化す余地を残す。知らぬ間に病気にさせられたり、総入歯にさせられていたなどというトンデモない話がぼつぼつ明るみに出ている。そうでなくともいまの医者は食べきれないほど(しかも、「服む」という範囲をはるかに越えているのだ)クスリをくれる。クスリ屋の手先となり果ていることは明かだ。東京都では、美濃部のオッココチョイが福祉をはき違いで老人を全部タダにしてしまったものだから、ゴマ化すほうに対して絶好の餌食を呈する結果となった。

現在のままでは、患者の側から医療費の使われかたをチェックする機能が働かないから何ともまずいのだ。そこで提案なのだが、医療費はそのつど患者が支払い、診療明細にもとづいて利用者が還付を受けるようにするのが良い。そうすれば、つまりぬ病気で安易に医者にかか込むことも少なくなろうし、ごまかしの多い医者は患者が寄りつかなくなるだろう。当局側は、事務手続きが煩雑になるからと言って反対するだろう。しかし、慢性不況にともなう潜在失業者の救済策として有望だ。そのために増加する費用は、医者のネコババを吐き出させれば相当量まかなえるはずだ。事務量が増えれば事務機器の市場を提供することにもなる。

健保の経済状態が好転することになるかどうかは分らぬが、富の再配分に関しては、より好まいかたちになるのではないかと、福祉に甘える怠け者や、それを喰いもの

にしてなおかつ特権をほしのままにする悪徳医者のフトコロを肥やすために、われわれ働き盛りが余計な負担を背負わされるということは、我慢のならないことである。

損害保険業者さんへ 自動車を登録し、車輛検査を受けるに際して、所有者は損害賠償強制保険料を支払わなければならないことになっている。その他わけの分らぬ税金類が、自家用オーナーの弱味につけ込んで徴収されるのだが、それはさておくとして、事故を起こすのは運転者であって車輛ではないのに、なぜ車輛の所有者が保険料を支払わなくてはならないのだろうか。車輛の損傷を修理するための保険なら、所有者が支払う理由はあるが、強制保険は本来運転者の責任を埋め合わせるためのものであるはず。

そこでまた提案するが、損害賠償保険を車輛検査のとき支払うのをやめにする。そのかわり運転免許を取るとき、および更新するときに、運転者に対して強制保険をかけさせると良い。自動車の数より運転免許取得者のほうが多いはずだから、保険会社は余計もうかるはずだ。ついでに注文だが、料率は本人の事故歴によって変化をつけておくことだ。新規取得者は評価の仕様がなから免許の種別に応じて一律にある程度高額にしておく。免許更新時まで事故・違反歴がある者は、その責任程度を表わす重みを β_i とすれば、 $e^{k\beta_i}$ に比例して保険料金を増額する。 t 年間無事故・無違反運転者は、 e^{-kt} に比例して料金を安くする。それではペーパードライバーはほとんど料金が安くなるのではないと言われるが、それでもかまわない。もしたまに運転して失態をやらかすと、次の免許更新時にウンと高額となるからだ。

ともかく交通事故の補償は、危険確率の程度の高い者から負担することと、責任の自覚がうすい人間は免許の継続を困難なようにしておくことが、間接的に交通安全に寄与するのではないかと、責任の自覚程度が疑われる無礼運転者のために、永年無事故の優秀運転者が高額な保険料を支払わされるということは、なんとも腹にすえかねることである。

(E. O.)

儲ける方法教えます

——慣習の矛盾に目ざめよう——